

大学共同利用機関法人自然科学研究機構  
教育研究評議会（第49回）議事要旨

1. 日 時 平成28年11月24日（木）10：45～13：15
2. 場 所 自然科学研究機構事務局会議室
3. 出席者 小森議長、岡田評議員、小川評議員、郷評議員、佐藤評議員、玉尾評議員、村上評議員、飯澤評議員、金子評議員、林評議員、竹入評議員、山本評議員、井本評議員、川合評議員、室賀評議員、上野評議員、岡本評議員  
(陪席者)  
二宮監事、竹俣監事  
(事務担当者)  
植垣総務課長、野田企画連携課長、布野財務課長、大河施設企画室長、国立天文台 笹川事務部長、核融合科学研究所 山本管理部長、岡崎統合事務センター 棚木事務センター長及び三好財務部長 他  
(研究成果発表者)  
磯田 昌岐 教授（生理学研究所）
4. 配付資料
  - 1 教育研究評議会（第48回）議事要旨（案）
  - 2-1 大学共同利用機関法人自然科学研究機構が設置する大学共同利用機関の長の選考の手続き及び任期等に関する規程
  - 2-2 大学共同利用機関法人自然科学研究機構大学共同利用機関長選考委員会規程
  - 3 基礎生物学研究所の組織改編（案）について
  - 4 大学共同利用機関法人自然科学研究機構核融合科学研究所火災事故検証委員会報告書
  - 5-1 平成27年度に係る業務の実績に関する評価の結果について（通知）
  - 5-2 平成27年度に係る業務の実績に関する評価結果 大学共同利用機関法人自然科学研究機構
  - 5-3 国立大学法人等の平成27年度評価結果について
  - 5-4 機能強化に向けた取組状況一覧
  - 5-5 国立大学法人・大学共同利用機関法人の改革推進状況【平成27年度】
  - 5-6 平成27年度評価に係る評価方法、審議経過等について
  - 6-1 平成27年度自己点検・自己評価、外部評価について（国立天文台）
  - 6-2 平成27年度自己点検・自己評価、外部評価について（核融合科学研究所）
  - 6-3 平成27年度自己点検・自己評価、外部評価について（基礎生物学研究所）
  - 6-4 平成27年度自己点検・自己評価、外部評価について（生理学研究所）
  - 6-5 平成27年度自己点検・自己評価、外部評価について（分子科学研究所）
  - 7 「定年制移行職員」制度の導入
  - 8-1 機構における役職員給与の改定について（案）
  - 8-2 給与勧告の骨子
  - 8-3 公務員の給与改定に関する取扱いについて

9-1 平成29年度概算要求（国立大学法人運営費交付金等）

9-2 平成29年度概算要求（自然科学研究機構）

10 第21回自然科学研究機構シンポジウムについて

席上配付資料

・「分野融合型共同研究の推進」及び「自然科学大学間連携推進機構」について

## 5. 議事等

議事に先立ち、事務局から定足数及び配付資料の確認があった後、小森機構長から席上配付資料に基づき、機構の取組について説明があった。

### 1) 前回議事要旨（案）について

前回教育研究評議会（第48回）議事要旨（案）（資料1）が了承された。

### 2) 基礎生物学研究所長候補者の選考について

事務局から、資料2-1及び資料2-2に基づき、関係規程の説明があった。

小森議長から、基礎生物学研究所長選考委員会より、山本 正幸氏（現 基礎生物学研究所長）を次期基礎生物学研究所長候補者（任期：平成29年4月1日～平成31年3月31日（2年））として推薦があった旨説明があった。

各評議員から特段の意見等はなく、これを踏まえて機構長（議長）が決定する旨の表明があった。

### 3) 生理学研究所長候補者の選考について

小森議長から、生理学研究所長選考委員会より、井本 敬二氏（現 生理学研究所長）を次期生理学研究所長候補者（任期：平成29年4月1日～平成31年3月31日（2年））として推薦があった旨説明があった。

各評議員から特段の意見等はなく、これを踏まえて機構長（議長）が決定する旨の表明があった。

### 4) 基礎生物学研究所の組織改編について

山本評議員から、資料3に基づき、基礎生物学研究所の組織改編について説明があり、審議の結果、案（資料3）のとおり了承された。

### 5) 核融合科学研究所火災事故検証委員会について

飯澤評議員から、資料4に基づき、核融合科学研究所火災事故検証委員会について報告があった。また、竹入評議員から、現在、核融合科学研究所において、検証委員会の報告に基づいた再発防止策により、安全対策を徹底しているところであり、今回の事故を教訓に、安全第一で作業を進めていく旨の報告があった。

（主な意見等は以下のとおり）

○ 副委員長として参加したが、委員会は原因追及が目的ではなく、できるだけ可能性を追究し、レポートすることが重要であると考えている。非常に有意義

な議論であった。

- 請負業者の作業担当者は書類送検されており、研究所の作業担当者は書類送検されていないということによいか。
- そのとおりである。
- この報告書について、文部科学省への報告以外にどのような取扱いとなっているか。
- 文部科学省への報告以外に、9月30日付けで機構のホームページにおいて公表している。
- この事故によって、どのくらい計画に遅れが生じているのか。
- LHDの実験はワンサイクル遅れたが、重水素実験については影響ない。
- 一人が亡くなられたが、死因と逃げられなかった原因は特定できているのか。
- 死因については、警察の発表で焼死と聞いている。逃げられなかった理由の特定までは検証委員会の範疇を超えており、警察の発表以外に知り得ることは難しいが、検証委員会では様々なことを想定し、研究所と請負業者の事前の確認作業や人命最優先として避難経路の事前確認の徹底などを確認している。

#### 6) 平成27事業年度に係る業務の実績に関する評価結果について

金子評議員から、資料5-1から資料5-6に基づき、平成27事業年度に係る業務の実績に関する評価結果について報告があった。

(主な意見等は以下のとおり)

- 核融合科学研究所の火災事故について、本評価結果には消火器の整備のことが記載されているが、これでは現場の方は逃げないで消火をしなくては行けないと考えてしまうことを危惧する。
- 本評価結果は、あくまで評価委員会の意見であり、機構としては人命最優先で安全対策を行っている。
- 化学の分野では火災事故・爆発事故が頻繁に起こってしまうが、事故が起きた際はとにかく逃げろということを徹底している。この点については、より一層の徹底を図っていただきたい。
- 核融合科学研究所の安全対策としては、人命最優先を第一としている。消火器の整備に関する記載については、おそらく再発防止策の一つとして記載されたものだと考えている。

#### 7) 平成27年度自己点検・自己評価、外部評価について

林評議員、竹入評議員、山本評議員、井本評議員及び川合評議員から、資料6-1から資料6-5に基づき、当該機関の平成27年度自己点検・自己評価、外部評価について報告があった。

(主な意見等は以下のとおり)

- 分子科学研究所の教授・准教授については、国際公募を行わないのか。
- 今後は、教授・准教授についても国際公募を行っていく予定である。

- 研究を進める上でのダイバシティを推進するために女性や外国人が非常に重要であり、必ずしも女性が増えるべきということではない。女性がない分野に女性は応募しようと思わないので、選考委員に女性を入れた方がよい。
- 機構の男女共同参画が評価された要因としては、佐藤前機構長が女性限定の公募を行ったためと考えている。今期も引続き、機構として予算を確保した上で、女性限定の公募を展開していきたいと考えている。
- 基礎生物学研究所では、昨年、女性限定の公募を行い、初めて女性のP I（准教授）を採用した。今後も教授又は准教授の女性P Iを増やす予定であり、助教については順調に増えている。
- 若手人材育成の点で、総研大と連携して大きな貢献をされているが、総研大にとって非常に重要なパートナーであり、その点をもう少し強調されてもいいのではと感じた。
- 新しい分野を作る際に、若い人が入ってくるような仕組みを作るのは非常に重要であると思うが、一方では、シニアな方が入るのも重要ではないか。また、新しい分野を作る際には、機構の戦略会議での議論が重要となってくるが、各分野の先生方との議論も重要ではないか。
- 各機関にはコミュニティがついており、各機関の運営会議の半数は外部の委員となっており、非常にシビアな議論が行われている。新分野にはコミュニティがついていないので、手探りでやっているところであり、新しい芽を見つけるに当たって、シニアと若手の勘をどう織り交ぜて行くのか、方向性を議論しているところである。分野融合型共同研究では、この芽をどのように育てていくか、また、芽になったようなものを新分野創成センターの探査室で取り上げていき、そこから成長してきたものを新分野創成センターで取り扱うように段階をおうような形になっている。
- 分野融合型共同研究では、ワークショップを開催できるようにしており、外部の先生も入っていただき、議論できるようにしている。

#### 8) 「定年制移行職員」制度の導入について

事務局から、資料7に基づき、「定年制移行職員」制度の導入について報告があった。

#### 9) 平成28年人事院勧告への対応について

事務局から、資料8-1から資料8-3に基づき、平成28年人事院勧告への対応について説明があり、審議の結果、案（資料8-1）のとおり了承された。

#### 10) 平成29年度概算要求について

事務局から、資料9に基づき、平成29年度概算要求について報告があった。

#### 11) 自然科学研究機構シンポジウム（第21回）について

竹入評議員から、資料10に基づき、自然科学研究機構シンポジウム（第21回）について報告があった。

## 1 2) 機構の最近の研究について

本機構の最近の研究成果について、生理学研究所の磯田昌岐 教授から「自己と他者の報酬情報処理における皮質・皮質下ネットワークの役割」と題して発表が行われ、意見交換があった。

以上